

# みたか環境ひろば 第38号

平成 24 年 1 月 1 日号



## 吉田農園の有機野菜



人が健康で生き生きと暮らしていくために「食」の重要性は勿論のことその中でも野菜の持つ効力は軽視できません。野菜には薬効もあるといいます。さびない老後を送るために心と体の交流活動を行う方々と東京ガスライフバルの協賛により、三鷹で30年間完全無農薬野菜を作り続ける吉田農園の吉田晴彦氏の講話を聞く機会がありました。

先代であるお父様が農薬を望まなかったのと兼業農家ということもあり、最初は自分たちが食べるために主に食品コンポストや米ぬか等を使い独自の肥料でもって手探りで土を回復させていったそうです。

従来の化学肥料や農薬を使った農業から有機農法に転換するのに6年、生産販売するのに10年かかった結果、もともと植物には自然エネルギーを転換する力があり肥料はそれ程必要ないことがわかってきたということです。葉っぱをめくりながら害虫を取る夏の作業が一番つらいと話す吉田社長（右下写真）。農業の規模としては最小規模ですが今では100種類もの野菜を育て近隣でも即日完売だそうです。試食してみて、何よりも新鮮で香りが強くうまみも凝縮されているようでした。このように力強く育った野菜の種はまた芽をだす確率も高く良く育つそうです。太陽と土と水、自然の恵みを感じながら旬の栄養価の高い野菜を味わってみませんか。私達もまたそれによって生かされていることに気づかされます。

現在有機農法も多岐にわたり、市内でもそういった農家の「おいしい野菜」を集めて駅前商店街でも販売しています。吉田農園の経緯は「農業が大規模になるにつれてそれが自然環境とは相容れない部分がある」という説を裏付けるものでした。野菜までも輸入に頼ってそのうち為替や先物取引等で価格が翻弄されるようでは「食の安全」が揺らぎかねません。農業は国土保全や温暖化防止等公益的価値も生み出しているのです。私自身農家の娘でも何でもありませんが、野菜もかつてのお米のように価格をある程度に保ち安定供給できるよう保護してもらいたいくらいです。

都心からそう遠くない利便性の高い街並みを抜けると住宅の合間に畑が広がる光景はちょっとした驚きと新鮮さがあり、生活の場としての魅力と共にその密接した距離感はいかほどの三鷹の農業の様々な可能性を示してくれています。(入江)



## 地域サッカークラブから見た環境問題

環境問題は人それぞれに観点が違い、色々な問題や色々な答えがあり全てと言える話はないと思います。今回は、サッカークラブから見た環境問題と取り組みを紹介します。

まず、今、一番の問題になっているのは放射能問題です。東京のサッカークラブや選手も放射能問題によって活動に支障が出ています。放射能で1番の被害を受けている福島県にはJヴィレッジと言うサッカーの合宿施設がありましたが、福島原発の影響により閉鎖しています。他にも光化学スモッグの影響で練習の打ちきりや中止もあります。これは温暖化の影響が大きく関わっています。ただでさえ子どもの遊び場、特にスポーツをする場所が少なくなっている中で環境問題はスポーツにとっても大打撃です。

私が代表を務めるサッカークラブでは、選手達が自分の環境は自分で守るとの考えで、ペットボトルの蓋を集めたり、サイズが小さくなったサッカー用品を回収し海外のサッカー少年に寄付をしたりしています。子どもだけでは場所を増やす事はできませんが、環境を意識する事はできるはずで、皆さんも小さな取り組みから、子ども達のために環境の維持や向上を心掛けて行きませんか？(村澤)



## 古新聞でペットボトル3本にも耐えられるエコバックを!!

先日、友人から新聞で作った小さな手提げでレモンをいただいた。聞くとデパートの袋を参考にして作ったとのこと『簡単だから作りなさい』と言われ、早速作ってみました。45×35の袋は大きく持ち歩きも便利、買い物の葉付き大根、ごぼう、すっぽり入ってしまいます。



三鷹市は平成21年10月から家庭ごみの有料化が実施、市民のごみ分別も定着しました。使用したあとの新聞バックを古紙収集に回し、リサイクルのリサイクルになりました。

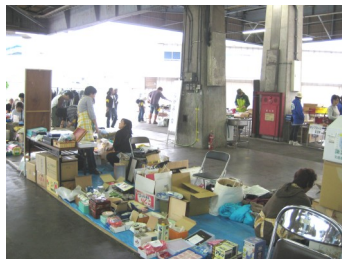
作り方:材料は新聞紙、のり(市販の糊でもいいですが、なじみやすいように家庭にある小麦粉、茶さじ2を100ccで溶き火にかけトロトロしてきたら出来上がり)ハケ(ハブラシでも)定規、空き缶(取っ手に丸みをつけるため)。1、新聞2枚を広げて糊を付け筒型にします。2、両側6cm折り目を付け谷折りです。マチができます。3、底の部分8cm折上げ糊を付ける。4、新聞半分を手元から巻き取っ手を作り、本体に貼り一晩置いたら出来上がりです。(小林)

## 地味でもキラリ 第33回 福祉バザー

「えっ、津軽三味線と太鼓？」 三鷹市暫定管理地の屋根に響き渡ります。昨年10月2日毎年恒例の福祉バザーが開催された一コマです。今回は環境(リユース)と福祉(福祉予算の補填)以外に「東北の復興を応援」のイベントが加わりました。

バザーは福祉施設、NPO、ボランティアグループ約30団体が出店し、売上は活動資金になります。当日は冬一番の冷え込みと多数の入場者で衣料品、日用雑貨の売れ行きが好調であり、売上金の一部を東日本大震災義援金として寄付されました。

出店者は昨今の広告費削減に加えリデュースの観点及びカタログギフトの普及によりバザー提供品を集めるのに一苦労しています。更に値付け作業も「これじゃ売れない、いやすぎる」と大変です。東日本大震災復興スピードはやや気がかりですが、今年も引き続き三鷹から東日本大震災の被災地を応援しましょう。(中野)



## 三鷹のみち ～『風待ちの風景』～

三鷹通りを歩いていたら、風車が目に飛び込んで来ました。高校の大時計の上に、さわやかな秋の風を受けて、ゆっくりと回転している風車があり、思わず停まって見上げてしまいました。3. 11以来の電気のありがたさが頭の隅にある昨今、いつもより存在感があるように見えたのでした。電力の地産地消や自然エネルギーなど今後の電気のあり方を問いかけている様にも感じました。

風車の発電は、炭酸ガスも出さず、放射能も出さず、資源も消費しない、その存在は価値があり、経済性だけを追求している社会に警鐘を鳴らしているようです。自然の風を感じ、陽の光の中で、秋の色と香りにどっぷりと浸かった、生き物の一員としての喜びや安心感や幸福感に魅了された生き方を語りかけている様です。

意外と風待ちの電気社会も住みやすいのではないかと感じました。(杉本)



## 環境掲示板

### ケマージュ(テコパージュ石鯨)作り

主催：三鷹市ごみ対策課  
日時：1月11日(水)  
午後1時から午後2時  
場所：三鷹市リサイクル市民工房  
対象：特になし  
定員：10名(多数の場合抽選)  
料金：無料  
申込先：往復はがきで12月26日(月曜日)  
必着で申し込む  
問い合わせ：ごみ対策課(内線2534)

### 段ボールの裂き織でポーチ作り

主催：三鷹市ごみ対策課  
日時：1月18日(水)  
午後1時から午後3時30分  
場所：三鷹市リサイクル市民工房  
対象：特になし  
定員：10名(多数の場合抽選)  
料金：無料  
申込先：往復はがきで1月10日(火曜日)  
必着で申し込む  
問い合わせ：ごみ対策課(内線2534)

### ふくろうのフローキ作り

主催：三鷹市ごみ対策課  
日時：1月25日(水)  
午後1時から午後3時30分  
場所：三鷹市リサイクル市民工房  
対象：特になし  
定員：8名(多数の場合抽選)  
料金：無料  
申込先：往復はがきで1月16日(月曜日)  
必着で申し込む  
問い合わせ：ごみ対策課(内線2534)

### 編集後記

あけましておめでとうございます。

今回は約30年もの間無農薬で野菜作りを行っている吉田農園を採り上げました。前回(37号)の水、土壌、微生物に続き今回は太陽、農薬が加わりました。農林業は国土保全や地球温暖化にも寄与しています。最近聞かれなくなった「お天道様がみてる! これでもいいのか!」は身近な環境を考える際につけ加えてほしい言葉です。

今回からレイアウトを変更しました。より良い紙面づくりを目指します。(中野)

発行：みたか環境活動推進会議  
(愛称 みんなの環境)

連絡先：三鷹市環境政策課

電話 0422-45-1151 内線2523・2524

E-mail:kankyo@city.mitaka.tokyo.jp

本誌は、市役所、市政窓口、図書館、コミセンや市のHPから入手できます。